

2020(令和2)年度 事業報告書

旭福祉センター・第二旭福祉センター

■ 令和2年度の最重点目標に対する事業経過報告(法人共通事項)

評価基準

評価	S	A	B	C	D
達成度	9割以上	7割程度	5割程度	3割程度	1割程度

1. 中長期計画の策定 【評価A】・・・中長期プロジェクトメンバー

策定メンバーを中心に話し合いを重ね、最終目標である3年計画の骨格と具体的なアクションプランの策定まで完成することができた。また、令和3年4月1日の法人全体の説明会にて、職員向けに説明を行った。今後は令和3年単年度分の計画を各メンバーと情報を密に取りながら、確実に遂行していく。

2. 職員必携の活用 【評価A】・・・職場改善2委員会

職員必携を朝礼にて定期的に朗読することで、必携の記載内容が日頃職員が行動するうえでの基礎となる重要な資料であると、まずは職員に理解してもらうことから始めた。また、必携内の行動指針の項目から具体的に題目を決め、年1~2回レポートを全職員に提出してもらい、必携の理解度を深める取り組みに努めた。

3. 地域と密着した活動の推進 【評価B】・・・地域貢献委員会

3班と10班の班会や地域行事は新型コロナの影響もあり、ほぼ未開催。清掃作業など一部実施された行事には参加した。野菜班では、利用者に対する近隣住民からのクレームがあったが、班のメンバーを中心に住民の方に真摯に対応したことで、時間はかかると思われるが関係性も良くなってくると思われる。その他日頃の地域住民と職員との接し方・態度は概ね良好であった。最後に、川上小との福祉体験学習は、新型コロナの影響で、小学校での講演(水流健一施設長)となった。

4. 人材育成(職員育成制度の円滑な実施) 【評価B】・・・主任会議

作業委員会の管理により各作業班の育成シートの確実な実施に努めた。作業委員会と育成担当者との協議も予定通り実施、シート活用に関する認識を深めることができた。

また、チューター制度に関しては新たに相談役を配置するなど、フォローアップ体制をより強化したが、新人の不安解消につながるコミュニケーション強化策としても効果的であった。ただ、中堅職員に対する年2回の面接は1回にとどまり、スキルアップ研修についても未実施となった。

5. 職場環境の充実 【評価 A】・・・総務委員会

ノー残業デイについては、職員の協力と声掛けにより認知度も高まり実施状況も上がってきている。有給休暇の取得状況については、4日以上 of 連休取得(達成率100%)は全員2回以上取得することが出来た。有給休暇取得一人当たり10日以上 of 目標は平均では11.3日となり、前年度比を更に1日程度伸ばすことができた。ただし、個別に見ると若干個人差も見受けられたので、次年度は個人差にも着目しながら取り組んでいきたい。

旭福祉センターグループの最重点目標

6. 予算業務の改善 【評価 A】

毎月の試算表確認を継続的に行うことで、収支の把握と予算管理及び現状を分析することができ計画的な備品購入等に繋がった。次年度以降は、科目処理の正確性の向上と収支管理の体制を継続し、安定した収支管理に努めていく。

7. 利用者・家族へのニーズに合わせた質の高い支援の提供 【評価 A】

利用者のニーズを把握して個別支援計画を作成することができた。今後はニーズとともに利用者の強みを活かせる支援計画を作成できるように検討する。権利擁護・虐待防止に関する研修を計画通り実施し、職員への意識向上が図れた。新型コロナウイルス感染症の影響もあり家族総会や新年会は中止となったが、ご家族とは必要に応じて連絡を取り合い、連携をとることができた。

8. リスクマネジメントへの体制づくり強化 【評価 A】

防災訓練に加えて、大規模災害を想定した非常災害時の訓練を実施する。集合・点呼・避難等における実施後の反省点を題材に、今後の訓練に活かすとともに非常事態の備えに対応できる体制づくりを構築していく。また、非常災害時の備蓄品(非常食と非常時の設備備品)の定期的な点検を実施、今年度は備蓄品のご飯の試食体験を行い、利用者・職員に好評であった。

9. 就労支援に関する情報収集・強化 【評価 B】

今年度は先進的な移行事業所 1 箇所への外部研修を実施、実務面と運用面について学ぶ機会を持つことができた。また、就労者 1 名の輩出は新型コロナの影響もあり、未達成に終わる。B 型事業の工賃目標も、新型コロナの影響を受け昨年度平均は下回った。(旭福祉センター就労継続支援B型の平均工賃月額 25,454 円、第二旭福祉センター就労継続支援 B 型事業の平均工賃月額 25,405 円)

10. 各種作業部門 製販計画の達成 【評価 A】

育成シートに関しては、今年度よりフロー資料を作成し、全作業班統一した運用方法で実施する事ができた。また作業班責任者との協議の場を通し、フロー資料の改善などを行った。製販計画は、コロナ禍で上半期約 300 万のマイナス(年度末予測 500 万マイナス)であったが、下半期は計画通りの数字を確保し、最終的な達成率は計画に対して 95%となった。コロナ禍で、各作業班でそれぞれ売上げ対策を練り工夫したことと、2 回のふれあいバザーを実施できたことが、主な要因である。特に、積極的な営業により、新たな施設外就労の発掘(山川食品)に至った点など、各作業班の目標達成に対する課題解決意識は、各班リーダーを中心に徐々に高まってきたと推測される。来年度は就労支援原価明細書、コスト講習等を通して各作業班でコスト意識を高め、製販計画の達成を目指す。

各委員会・作業班 事業報告

各委員会

〔支援委員会〕

今年度は特に加算についての確認を徹底して行った。個別支援計画に係る書類等の提出についても管理のしやすい仕組みを作り、試験的に実施、特に問題なく機能しており、正式に採用する予定である。また、新人職員への育成も個別に説明会等を開催して対応している。令和3年度もより一層職員の個別支援計画作成の知識・技術の向上を図っていきたい。

〔生活委員会〕

役割分担・利用者の生活面の確立・施設内整備等の改善について、委員会メンバーそれぞれの役割を確認しながら進めることができた。居室整理についての課題がまだ未達成であるので、次年度に改善を進めていく。

〔地域①②委員会〕

今年度参加を予定していた行事等は新型コロナウイルスの影響で中止が相次いだ。が、地域で行われた春山運動会には感染対策を実施したうえで参加することができ、施設内での七夕飾りも実施することができた。また、幾つかのイベントの実施フローを見直し、資料を作成した。農福マルシェはオンラインで開催され、初めての試みの中、試行錯誤しながら商品を出すことができた。

〔職場改善①委員会〕

新人職員に対する研修や説明、確認事項の見直しと管理体制の改善を行い、不安や疑問についてフォローする体制を確立でき、関係する部署との連携も円滑に行えた。しかしながら、職員の自己管理面やスキルアップ面に關わる研修が計画通りにできなかった為、次年度はフォロー体制は継続しながら、確実な研修実施を目標に、職員の資質向上を含めた職場環境の改善に努めていく。

〔人権擁護委員会〕

例年行っているチェックリスト記入や利用者ヒアリングの実施に加え、今年度は外部から講師を招いての研修を実施、様々な考えや意見を聞くことで、改めて虐待防止について考える良い機会となった。今年度も引き続き委員会活動を通して、全職員が人権擁護の意識を共有できるよう取り組んでいく。

〔炊事委員会〕

今年度も計画通り嗜好調査を実施し、利用者の希望に沿うように改善を行った。また、新型コロナウイルス対策として昼食時間を分け飛沫を防ぐ工夫や調理室・食堂の消毒を徹底した。食事制限に加え、刻みや糖質制限が必要な利用者が増えている為、今後も全職員での情報共有に努めたい。

〔センターふれあいバザー実行委員会〕

春のふれあいバザーは新型コロナウイルスの影響で開催を中止したが、秋のバザーは感染症対策を行ったうえで別会場 尚且つ2日間に分け、縮小開催した。初めての試みではあったが、実行委員会で打合せを十分に行い、当日は大きな混乱もなく開催することができた。

〔入所・GH 旅行委員会〕

新型コロナウイルスの影響により GH 旅行は中止とし、旅行の代替としてカフェ NODOKA で食事会を開催した。餅つき大会も外部の招待などは行わず、事業所内で餅つきだけを行い利用者へ配膳する形での実施となった。また、前年度の反

省を基に実施フローを完成させた。来年度は新型コロナウイルスの状況を踏まえた上で計画を立案し、フローを基に早期計画を心掛ける。

〔行事 A〕

新型コロナウイルスの影響により、利用者の安全を考慮しキャンプは代替の行事(バーベキュー)での開催、また、新年会は中止とした。昨年度に作成した新年会の準備フロー資料は、次年度の行事計画の実施時に活用することとし、次年度はキャンプの準備フロー作成を進める計画である。今後も利用者の安全を最大限に考慮し、利用者主体のキャンプや新年会を円滑に実施できるよう努めていきたい。

〔行事 B〕

コロナ禍で一日旅行や外出の実施は見送ったが、代替として行事 C と合同による事業所内での忘年会を開催した。想定外の事態で急遽準備したこともあり、開始時間が遅れる等の反省はあったものの、利用者には大変好評であった。来年度は早めの立案・計画・実施を心がけ、メンバー内の情報共有を徹底していく。

〔行事 C〕

今年度に企画していた行事は新型コロナウイルスの影響もあって計画の変更や規模の縮小などを必要としたが、安全面に考慮した対策を行い、三行事とも開催することができた。来期もメンバー間での連携を密に行い、早期計画をしてより良い行事にしていけるよう目指していく。

〔広報委員会〕

センターでのイベントや楓・NODOKA の情報発信は、SNS・ホームページを活用し更新できたが、ホームページは掲載不十分な点があり、また、SNS も更なる工夫が必要である。次年度は更新に関する予実管理を見直し、メンバー間の情報共有を行い定期的に情報発信できるようにする。

令和 2 年度（各作業班別の重点目標に対する事業報告）

作業班	重点目標	令和 2(2020)年度事業報告
NODOKA	・集客率アップ ・接客サービス向上 ・新メニュー開発	売上を達成。コロナ禍で厳しい年だったが、感染防止の対策を問題なく接客スタッフが対応できるよう情報を共有したり、新メニュー開発(テイクアウト等)を早めに計画・実行に移すことで適切に対応できた。これからも宣

		伝効果の一つとして SNS 等の宣伝にもっと魅力を感じられるような取り組みをしていきたい。
楓 (菓子班)	人材育成(育成シート活用と利用者スキルアップ)・協力体制の確立	計画に対し未達。新型コロナウイルスの影響でイベント関係が中止となったことが売上未達成の主な原因であったが、新商品や利用者発案による新商品開発等への取り組みを行い、商品化までできたことは非常に良かった。NODOKA も含め SNS 等の宣伝を更に強化し、今後も宣伝を強化していく。
竹工 (作業・生活介護)	人材育成シート活用による職員育成・コスト意識の向上・新規作業考案の為の情報収集	売上計画は達成。コロナ禍において下期に請負作業の受注が減少したが、新規営業開拓で施設外就労先が見つかり売上をカバーした。生活介護においても育成シートを活用した人材育成を実施できた。また、冷暖房管理・節水などコスト意識の向上に努めることができた。
蔬菜	育成シートを活用した人材育成 ・職員、利用者の技術向上 ・協力体制の確立	計画を達成。職員・利用者の作業レベルは向上している。また、敷地内に限らず周辺の清掃意識も向上しつつある。地域採用職員の協力も得ながら地域との関わりを深めていく。バザー等の自粛が続いたが、代替イベントを実施し、売上確保ができた。来年度は技術面、支援面でのレベルアップを図っていく。
陶芸	成型から焼成までの丁寧な作品作り	窯元見学や専門誌を見ながら、自分達の作品と比較して改善していく中でその都度検討し、修正を行った。新規販路・営業活動など進行中の案件については成果に繋げられる様フォローを行う。尚、売り上げは未達であった。長期的なビジョンと、その具体的な計画が必要である。
施設外就労	・各顧客との連携強化 ・利用者支援の充実 ・施設外就労の制度理解	売上計画に対し 99%の達成率であった。施設外就労先に対し各職員が積極的にコミュニケーションを図り、業務を円滑に進めることができた。作業日誌・実施報告書の確認を毎月実施し、円滑な業務運営を心掛けた。また、利用者支援に関しては、利用者情報の共有及び、各職員の支援スキル向上に努めた。
メンテナンス	・育成シートと研修を活用した人材育成 ・医療関連サービスマークの更新準備	コロナ禍による作業中止が影響し、売上は計画に対し未達となる。育成シートの活用や現場での OJT はその都度行うことができたが、スキルアップ研修は計画通りに実施できなかった。次年度に向け取り組みの見直しを行い、確実な実施に努めていく。医療関連サービスマークの更新準備は計画よりも遅れはしたが、最終的に完了した。
味噌	・関係部署との連携 ・生産、行事等への早期計画	売上計画は達成した。新型コロナウイルスの影響によりイベント等の相次ぐ中止で売上は減少してしまっていたが、納品先や店舗販売は前年度と変わらず、また、社内販売での注文数は上がった。今後も声かけや SNS 等の宣伝を活用し、また計画的な味噌作りの実施を目指していく。

令和2年度達成額

作業班	R2年度計画	R2年度 達成額	達成率
蔬 菜	4,200,000	4,280,000	101.8%
楓 (菓子班)	17,500,000	16,410,000	93.8%
NODOKA	7,500,000	7,640,000	101.9%
メンテナンス	23,000,000	21,910,000	95.3%
竹 工	2,750,000	2,870,000	104.4%
陶 芸	1,250,000	680,000	54.4%
施設外就労	5,200,000	5,170,000	99.4%
味 噌	1,400,000	1,430,000	102.1%
その他	600,000	150,000	25.0%
合 計	63,400,000	60,540,000	95.4%

年度別 達成額一覧

作業班	H29(2017) 達成額	H30(2018) 達成額	R 元年(2019) 達成額
蔬 菜	4,230,000	4,620,000	4,060,000
楓 (菓子)	16,180,000	17,250,000	17,440,000
NODOKA	6,770,000	7,150,000	7,870,000
メンテナンス	21,060,000	21,800,000	22,510,000
竹 工	4,320,000	3,750,000	3,170,000
陶 芸	920,000	970,000	1,590,000
施設外就労	700,000	1,300,000	5,070,000
味 噌	1,320,000	1,400,000	1,370,000
その他	500,000	1,200,000	1,000,000
合 計	56,020,000	59,420,000	64,080,000

各サービス別の月額平均工賃

		R 元年度	R2年度
旭福祉センター	生活介護	7,507	5,863
	就労継続B	27,282	25,454
第二旭福祉センター	就労移行	10,371	9,952
	就労継続B	27,088	25,405
全 体 平 均		19,425	18,442
一般就労者平均		91,243(6名)	83,604(6名)

(その他)

・ 職員研修の充実

令和2年度は、施設内において年間9回(新人・中堅・人権擁護・清掃メンテナンス・チューター研修など)の研修を実施、職員の障害に関する知識と支援技術の向上や、社会性・道徳・倫理的な要素を取り入れた研修等を行った。また、外部研修についてもコロナ禍であるが、オンライン研修等も含め、計 50 回の様々な研修・講演会に参加、資質の向上に努めた。

・ グループホームの充実

グループホームの充実を目的として、今年度も世話人との情報交換会(年2回)を実施した。また、7つのグループホームに所属する利用者(29名)と各担当職員を交え、グループホームの決まり事や要望等を話し合う意見交換会(年2回)を実施した。尚、8つ目のグループホーム 楓(坂元町)については、令和2年3月に竣工し、同年5月より運営を開始した。

・ 福祉教育

令和2年度は、下記の実習生・研修生等を受け入れ、福祉教育の充実に寄与した。

- ・ 保育士実習 1名 (1校)
- ・ 特別支援学校現場実習 12名 (4校)
- ・ 福祉学習(※川上小体育館にて実施) 90名(対象:川上小4年生)